

如何なりしや。請ふ左に之れが大略を掲げん。

車師前王の地は吐魯番にして烏魯木齊は即ち車師後王の地とす。太初三年(西紀前百)漢貳師將軍李廣利をして大宛を撃たしむ。李其國を降し、其王を殺すや、敦煌以西鹽地に至るの間、處々亭を設け、屯田卒數百を置く。天漢二年(紀元前九十九年)漢、匈奴の降者、介和生を開陵侯に封じ、樓蘭國(今之羅布附近)の兵を授けて車師を討たしむ。匈奴、右賢王に數萬の兵を與へ、之を救ひて漢兵を破る。征和四年(紀元前八十七年)漢重ねて馬通を遣し、匈奴を撃たしむ。馬通車師の北を過ぐるに及び、更に開陵侯に樓蘭尉犁、危須(今之庫車)等總て六國の兵を附し、別に車師に向はしめ、遂に其王を降せり。昭帝の代(紀元前八十年)匈奴復た四千の兵を發して車師に田す。宣帝(紀元前七十年代)位に即き、五將を選んで匈奴を討たしむ。車師の田する者皆驚いて四方に散じ、車師再び漢に通ず。地節二年(紀元前六十一年)侍郎鄭吉、車師を撃て交河城を破る。時に王其北方なる石城中に在り、翌年秋、鄭吉愈、王を石城に圍み、遂に之を降す。後、車師、匈奴を恐れて烏孫(今之伊犁)に奔る。漢吏卒を發し、車師に田せしに、匈奴の攻撃急なる爲め、田卒悉く渠犂に徙れり。是より漢車師に田せず、却て故車師王の子軍宿、焉耆(喀喇沙爾)に潜